



～地域とともにある学校をめざして～

# 鯀コミ

R4 CS通信No.18 R5.2.21



(コミュニティ・スクール通信) 文責 社会教育推進 DC 藤田昭彦

4・5・6年スキー教室(西海小学校)・後期生徒総会(鯀ヶ沢中学校)・4年手話教室(舞戸小学校)

2月2日(木)は、西海小学校4・5・6年のスキー教室がありました。新型コロナウイルス感染症の影響で、この3年間は、実施していないということで、全学年が初めてのスキー教室でした。

当日は、鯀ヶ沢町スキークラブや地域の方々、PTAの協力を得て、スキー教室を実施しました。

スキー靴をはくのも、リフトに乗るのも初めてという子どもたちがほとんどでしたが、道具や斜面に慣れると歓声を上げて楽しく滑ることができるようになりました。また、講師の先生方の話をよく聞いて練習に取り組み、頑張っていました。

協力した町スキークラブや地域の方々は、「一生懸命な子どもたちで指導しやすかった。」「子どもたちの上達が早くてびっくりした。」と話していました。



2月17日(金)鯀ヶ沢中学校で、後期生徒総会がありました。今回の生徒総会では、学校側からの3つの提案事項に対して、生徒が意見を出し合い、決めていきました。

3つの提案事項というのは、「学年生徒会の新設について」「部活動廃部規約について」「文化部の新設について」です。

生徒総会全体を通して、校長先生や教頭先生、担当の先生も説明したり、質問を受けたりして、先生方と生徒と一緒に現在の問題点を話し合っていました。

特に、部活動の問題は、生徒数の減少によって、どこの中学校でも見られる問題だそうです。

そのため、このような生徒と先生と一緒にあった話し合いは、益々貴重になりそうです。



2月20日(月)舞戸小4年生で、聴覚・言語障がい者への理解を深めるとともに、障がいのある方とふれあうことで、お互いを尊重できる思いやりの心を育てるために手話教室を開催しました。

主催は、鯀ヶ沢町ほけん福祉課、講師は西北五ろうあ協会の成田さんが務めました。

耳が聞こえない人とのコミュニケーションの取り方は、手話の他にも筆談、空書、口話、指文字、身振り等あることがわかり、子どもたちは身振り伝言ゲームなどで理解を深めていました。

身振り伝言ゲームでは、正解を求めることよりも見たものをイメージとして相手に伝えることが最も大事であることを学ぶことができました。

手話教室に参加した4年生代表児童は、「耳が聞こえない人に伝える方法はいろいろあることがわかりました。試してみたいです。」と、満足した顔で話していました。

